Wireless LAN PCCB-11

取扱説明書

http://www.corega.co.jp

PN J613-M7086-00 Rev.A 010620

安全のために

必ずお守りください

警告 下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。

分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

雷のときはさわらない

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)

異物厳禁

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

設置場所注意

注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり、周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると、火傷の恐れがあります。

高温注意

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外しのときの注意

コンピュータのPCカードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ず本マニュアル及び、ご使用のコンピュータのマニュアルを参照の上正しく行ってください。

長期保管時は袋に入れて

本製品を長期にわたって保管する場合は、必ず添付の袋（静電防止）に入れてください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

はじめに

この度は、「corega Wireless LAN PCCB-11」無線LAN 用 PCカードをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルは、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

・ corega Wireless LAN PCCB-11 本体

・ セットアップユーティリティーディスク（2 枚）

・ 取扱説明書

・ シリアル番号ラベル

・ 電波干渉注意ラベル

ドライブ名「A:」「C:」「D:」

本書では、ドライバーのインストール対象となるコンピュータ機種として「AT 互換機 /PC98-NX シリーズ」を想定しています。「AT 互換機 /PC98-NX シリーズ」では、ドライブ名として下記を仮定して説明しています。ご使用のコンピュータでドライブ名が異なる場合は、ご使用のコンピュータにおけるものと読み替えてください。

・「フロッピーディスクドライブ」として「A:」

・「起動ドライブ（ハードディスク）」として「C:」

・「CD-ROM ドライブ」として「D:」

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用 にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止 した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談して下さい。

3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターにお問い合わせ下さい。

目次

1 概要

1.1 特長

corega Wireless LAN PCCB-11（以下、「WL PCCB-11」と略します）は以下の特長をもつ無線 LAN カードです。

- 「WL PCCB-11」無線 LAN カード及び無線 LAN アダプターを取り付けたコンピュータ同士で、無線通信を実現
- 別売のアクセスポイントを使用すれば、既存の有線 LAN 環境と無線 LAN 環境を統一したネットワークの構築が可能
- 2.4GHz 帯の小電力通信システムを使用しているため無線免許が不要
- 直接拡散スペクトラム拡散方式（DS-SS）の採用によりノイズにも強い
- IEEE802.11b に準拠し、無線上での通信速度 11Mbps の通信が可能
- 通信可能距離は、最大で、屋外 150m/ 屋内 50m（送信速度 11Mbps 時には、屋外 60m/ 屋内 30m）
- 配線の必要がないので、パソコンの設置や移動が容易
- PC Card Standard (PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2）Type II に対応
- Type II PC カードスロットをもつ AT 互換機 /NEC PC98-NX シリーズに対応
- 動作状態を表示する LED がカード本体に付属
- Plug&Play に対応 (注)
- ホットプラグ / ホットスワップ（活線挿抜）に対応 (注)

注意

Plug&Play、ホットプラグ / ホットスワップ（活線挿抜）は、これらの機能に対応しているコンピュータ、オペレーティングシステム（OS）とドライバーのもとでご使用になれます。

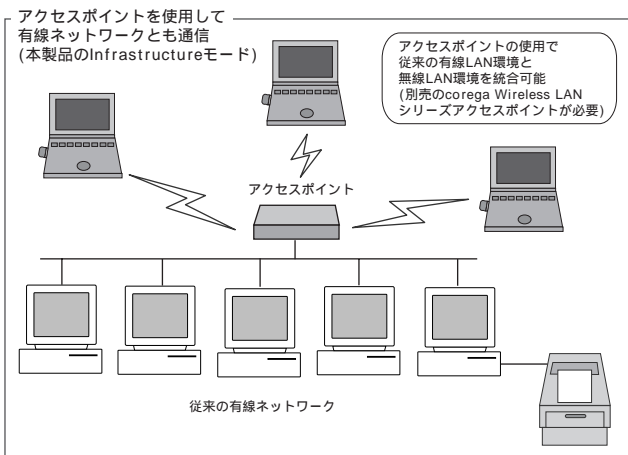
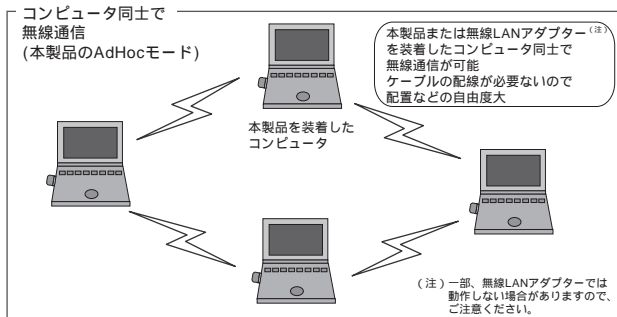
1.2 本製品を使用したネットワーク構成

本製品を使用すると、次の 2 種類の構成の無線ネットワークを構築することができます。

アクセスポイントを使用して
有線ネットワークとも通信
(本製品のInfrastructureモード)

アクセスポイントの使用で
従来の有線LAN環境と
無線LAN環境を統合可能
(別売のcorega Wireless LAN
シリーズアクセスポイントが必要)

アクセスポイント

従来の有線ネットワーク

1.3 対応コンピュータ機種

本製品は、PC Card Standard（PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2　Type Ⅱ ）に対応するPCカードスロットを持つ次のコンピュータ機種に対応しています。

・ AT 互換機およびNEC PC98-NX シリーズ

1

1.4 対応オペレーティングシステム

本製品および 添付のセットアップユーティリティーは、次のオ ペレーティ ングシステム（OS）に対応しています。

・ Windows 98（Second Editionにも対応）

・ Windows 2000

・ Windows Me

・ Windows 95

・ Windows NT4.0(サービスパック３以上がインストールされていること）(注)

省電力モード（パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能）には対応しておりませんので、全ての設定を無効にしてご使用ください。

Windows 98、Windows 2000、Windows Me のACPI機能には対応しておりません。

本製品の Windows 95、Windows NT4.0 上での動作については保証しておりませんのであらかじめご了承ください。
本製品を Windows 95、Windows NT4.0 上でご使用のお客様は、弊社ホームページ（http://www.corega.co.jp/) に公開されているインストール手順書 (PDF ファイル) を元にインストール作業などを行ってください。

1.5 各部の名称と働き

図 1.5.0.1、図 1.5.0.2 をもとに各部の名称と働きを説明します。

① PC カード本体

コンピュータの PC カードスロットに挿入し、LAN アダプターの機能を提供します。

② Power/Link LED（緑）

次のように、LED がステータスを表示します。

点灯：電源供給時、Link が確立されている時
点滅：電源供給時、Link が確立されていない時
消灯：電源が供給されていない時

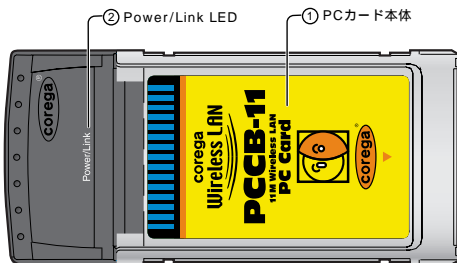



図 1.5.0.1 WL PCCB-11 外観図（上面）

③ 警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

④ MAC アドレスラベル

本製品の MAC アドレスが記入されています。MAC アドレスついては、「A.2 MAC アドレス」（A-2 ページ）をご覧ください。

⑤ シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。同じものが、3 枚ほど同梱されており、パッケージ（外箱）にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、「製品保証書」に貼付してください（残る 1 枚は予備です）。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

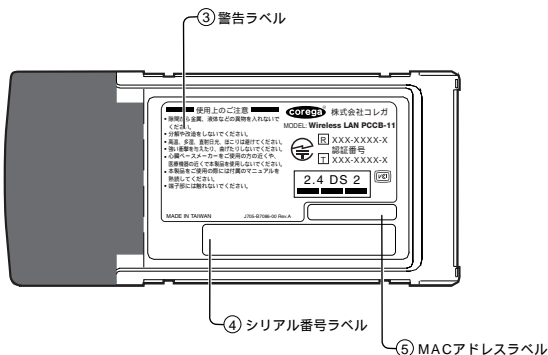



図 1.5.0.2WL PCCB-11 外観図（下面）

図 1.5.0.2 中の 2.4 DS 2 記号は、次の内容を意味します。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

1.6 設置時の注意

本製品を設置する前に、「安全のために」(2 ページ)、「 電波に関する注意」（5 ページ）を必ずお読みください。
無線通信を行うコンピュータ同士は、お互いのコンピュータを見通せる位置に設置してください。本製品のサービスエリアは、屋外で 150m、屋内で 50m（11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m）になります。

コネクターの端 子にはさわらないでくだ さい。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

本製品をコンピュータに取り付けたときに、アンテナ部（コンピュータ本体の外に出る部分で、アンテナが内蔵される）には、無理な力を加えないでください。

- 物を落とす、手をつく
- 手や物を引っかける

など、無理な力を加えると、本製品の故障や破損の原因となります。

上記の注意に従わず、誤った使い方をした場合に発生した故障につきましては、製品保証の対象外とさせていただきます。

本製品に触れる 前に、あらかじめ他の金属 部分（水道の蛇口、ドアノブ等）に触れて体内の静電 気を放電してください。この 時、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。
本製品の内部には、最新の IC 類が使用されています。ご使用中の静電気による故障対策はされて いますが、他の機器との接続 時などには、特に注意してください。お客様の不注意 により生じた静電気等に よる故障等につきましては、保証の対象外となりますのであらかじめご了承ください。

2 Windows 98/Me

2.1 インストール

本製品をシステムにインストールする手順について説明します。インストールは、次の 2 段階の手順で実行してください。

手順 1　　本製品をコンピュータに取り付ける

手順 2　　ユーティリティープログラムをインストールする

以下にあげる手順は一例です。お客様の環境によっては、手順などが若干異なることがあります。また、ここでは Windows 98 Second Edition での手順を例にしています。Windows Me をご使用の場合は、「98」を「Me」に読み替えてください。Windows 98 と Windows Me で手順が異なる場合には、それぞれに分けて記述します。

2.1.1 インストールを始める前に

●用意するもの

- WL PCCB-11 カード本体
- コンピュータ（Windows 98/Meインストール済み）
- 本製品付属の、「セットアップユーティリティーディスク」2 枚
- Windows 98/Meの CD-ROM（下記の注意事項は、必ずご確認ください）

Windows 98/Me が、コンピュータ購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、Windows 98/Me のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のため必ずフロッピーディスク等に Windows 98/Me のバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧になるか、コンピュータメーカーにご確認ください。

ハードディスク内のデータは、必ずフロッピーディスク等にバックアップをとった後で、ドライバーのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。
また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

2.1.2　本製品のパソコンへの取り付け

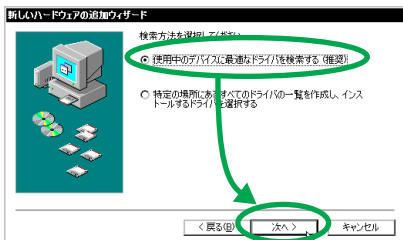
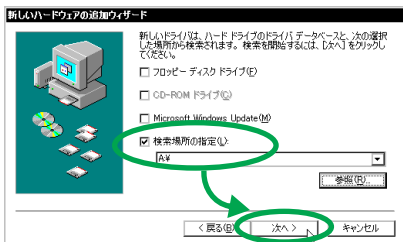
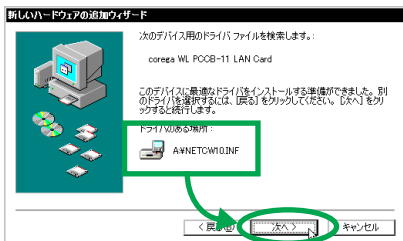
本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブ等）に触れて体内の静電気を放電してください。この時、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

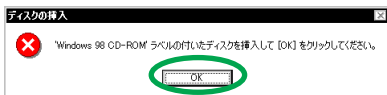
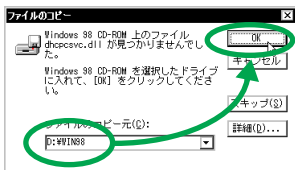
■ Windows 98 をご使用の場合

(1)　コンピュータの電源をオンにし、Windows 98 を起動してください。

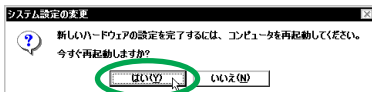
(2)　コンピュータの PC カードスロットに本製品を挿入してください。

(3)　Windows 98 は本製品が PC カードスロットに挿入されたことを自動的に検出し、「新しいハードウェアの追加ウィザード」を起動します。「次へ」ボタンをクリックします。

(4)　「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

(5) 「セットアップユーティリティーディスク 1of2」をフロッピーディスクドライブに挿入し、次のダイアログで「検索場所の指定」を「A:\」と入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

(6) 「ドライバのある場所」に、「A:\NETCW10.INF」と表示されているのを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

また、次のようなダイアログが表示される場合、Windows 98 の CD-ROM が CD-ROM ドライブに挿入されていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

2

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー元」に「**D:\WIN98**」を入力してください。ここではCD-ROM ドライブを「D:」、AT 互換機を仮定します。

ご使用のコンピュータがプリインストール版である場合、「ファイルのコピー元」として「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」を入力してください（ここではハードディスクドライブを「C:」、AT 互換機を仮定します）。

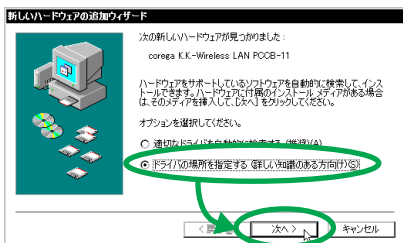
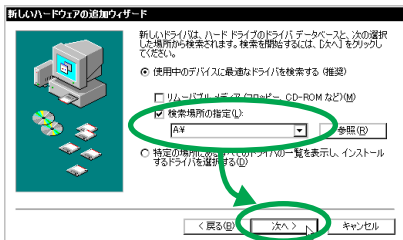
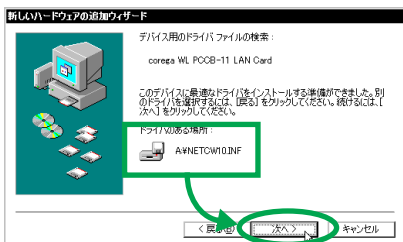
(7)　「完了」ボタンをクリックしてください。

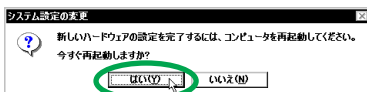
(8)　フロッピーディスクドライブからディスクを抜き、「はい」ボタンをクリックし、コンピュータを再起動します。

ご使用 PC環境によっては、「はい」を選択するとコンピュータがフリーズする場合があります。この場合は、「いいえ」を選択し、「スタート」メニューから「Windows の終了」を選択して、コンピュータを再起動してください。

■ Windows Me をご使用の場合

(1) コンピュータの電源をオンにし、Windows Me を起動してください。

(2) コンピュータの PC カードスロットに本製品を挿入してください。

(3) Windows Meは本製品がPCカードスロットに挿入されたことを自動的に検出し、「新しいハードウェアの追加ウィザード」を起動します。「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。

(4) 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」の「検索場所の指定」のみをチェックし、パスとして「A:\」を入力します。「リムーバブルメディア（フロッピー、CD-ROM など）のチェックは外しておきます。「セットアップユーティリティーディスク 1of2」をフロッピーディスクドライブに挿入し、「次へ」ボタンをクリックします。

(5)　「ドライバのある場所」に、「A:\NETCW10.INF」と表示されているのを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

(6)　「完了」ボタンをクリックしてください。

(7)　フロッピーディスクドライブからディスクを抜き、「はい」ボタンをクリックし、コンピュータを再起動します。

注意

ご使用 PC環境によっては、「はい」を選択するとコンピュータがフリーズする場合があります。この場合は、「いいえ」を選択し、「スタート」メニューから「Windows の終了」を選択して、コンピュータを再起動してください。

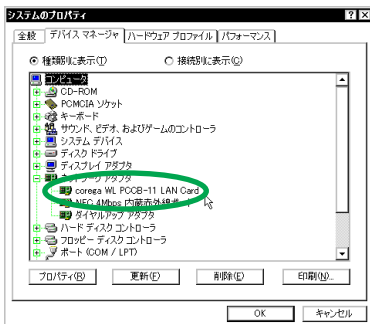
2.1.3 インストールの確認

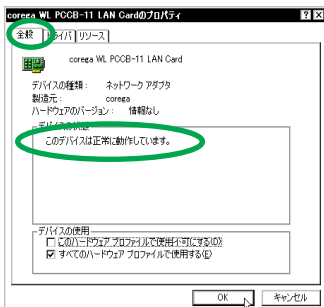
正しくドライバーのインストールが終了していることを確認してから、「2.1.4 ユーティリティープログラムのインストール」(2-10ページ)に進みます。

ここではWindows 98 Second Editionでの手順を例にしています。

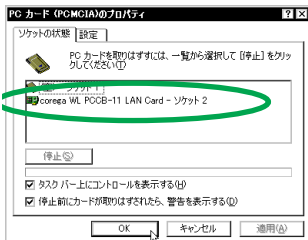
●デバイスマネージャによるインストールの確認

(1) 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックします。

(2) 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega WL PCCB-11 LAN Card」が表示されます。

本製品のアイコンに「×」「？」「！」などのマークが付いていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「2.6 トラブルシューティング」（2-41 ページ）をご覧ください。

(3) 「corega WL PCCB-11 LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」ボタンをクリックします。「全般」タブで「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。

(4)　本製品が使用するI/Oの範囲（I/Oアドレス）、割り込み要求（IRQ）などは、Windows 98によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。
ここでは、リソースの「I/Oの範囲」が「1000 - 103F」、「割り込み要求」が「06」に、自動的に設定されています。

● PCカード（PCMCIA）による確認

「コントロールパネル」の「PCカード（PCMCIA）」アイコンをダブルクリックします。「ソケットの状態」タブを選択し、該当するソケットに「corega WL PCCB-11 LAN Card」が表示されていることを確認します。

2.1.4 ユーティリティープログラムのインストール

本製品を無線LANシステムで使用するための設定を行うには､ユーティリティープログラムをインストールする必要があります。

●ユーティリーティープログラムインストール時の設定項目

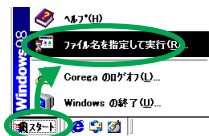
ここでは、ユーティリーティープログラムをインストールする際に設定する項目について説明します。設定する項目は、次の2項目です。

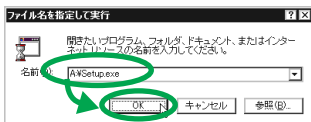
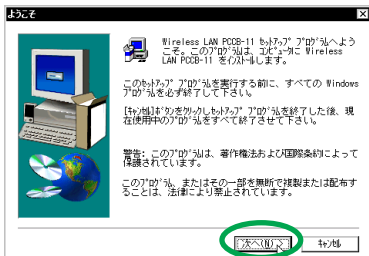
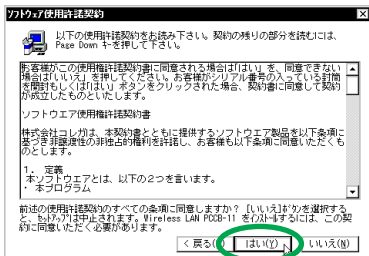
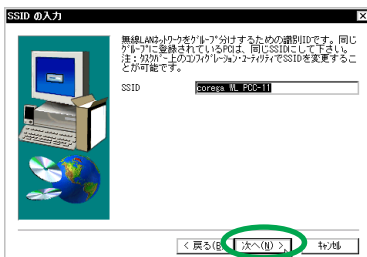
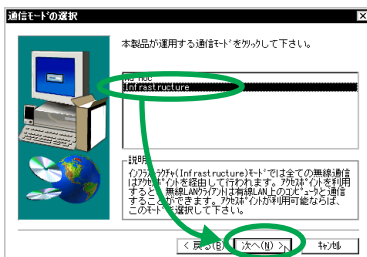
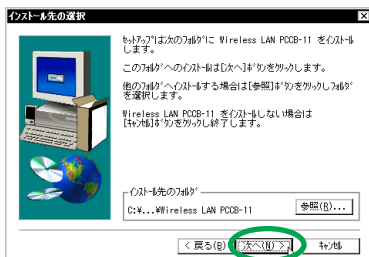
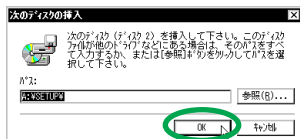
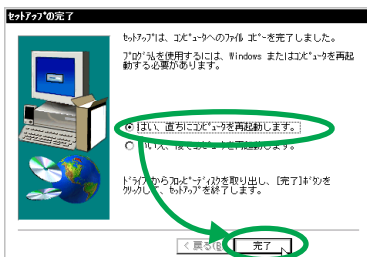
- 「SSID」
  無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータ同士は、同じ SSID を設定します。SSID は、半角英数文字32文字以内で設定します（大文字､小文字も区別されます)｡「Infrastructure」モードの場合に有効になります。
  インストール時のデフォルトは、「corega WL PCC-11」です。

- 「通信モード」
  無線LANのネットワーク構成を設定します｡「AdHoc」モードでは、本製品（または無線LANアダプター(注)）を取り付けたコンピュータ同士でネットワークを構成します｡「Infrastructure」モードでは、アクセスポイントを使用し､有線ネットワークと無線ネットワークが統合され1つのネットワークとして構成されます。
  インストール時のデフォルトは、「Infrastructure」です。

次に説明する手順の中では､「SSID」はデフォルトのままで､「通信モード」は「「Infrastructure」モードでインストールするものとして説明します。

(1) 「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。

注意

本製品を装着したコンピュータと、一部、無線 LAN アダプターを装着したコンピュータで通信できない場合があります。あらかじめご確認の上、ご使用ください。

(2) 「セットアップユーティリティーディスク 1of2」をフロッピーディスクドライブに挿入し、「名前」に「A:\ Setup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリックします（ここではフロッピーディスクドライブを「A:」、AT 互換機を仮定します）。

(3) 「Setup」プログラムを実行する前に、他のプログラムを終了し、「次へ >」ボタンをクリックします。

(4) 「ソフトウェア使用権許諾契約書」の内容を確認し、「はい」ボタンをクリックします。

(5) 「SSID」を設定し、「次へ>」ボタンをクリックします。
デフォルトは、「corega WL PCC-11」です。

(6) 「通信モード」を設定し、「次へ>」ボタンをクリックします。
「AdHoc」モードで使用する場合は、ここでモードを選択してください。デフォルトは、「Infrastructure」モードです。

(7) ユーティリティープログラムのインストール先を指定します。表示されているインストール先を変更したい場合は、「参照 ...」ボタンをクリックし、変更先を指定します。インストール先が決まったら、「次へ >」ボタンをクリックします。

(8) ファイルのコピーが始まります。次のダイアログが表示されたら、フロッピーディスクを「セットアップユーティリティーディスク 2of2」に交換し、「OK」ボタンをクリックします。

(9) ユーティリティープログラムを使用する前に、コンピュータを再起動する必要があります。「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択し、フロッピーディスクドライブからディスクを抜き、「完了」ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。

2.1.5 無線アイコンの表示

コンピュータが再起動すると、タスクバーに無線アイコンが表示されます。通信モードを「Infrastructure」に設定した場合は、アクセスポイントとの接続情報に従って、表示されるアイコンが異なります。アイコンの種類は、次のとおりです。

[「Infrastructure」モードでアクセスポイントとの通信状態が良好な場合]

[「Infrastructure」モードでアクセスポイントとの通信状態が不良な場合]

[「Infrastructure」モードでアクセスポイント検索中の場合]

2.2 本製品の設定

本製品を無線 LAN システムで使用するために必要な設定は、「Configuration Utility」を使用して変更します。

2.2.1 基本設定

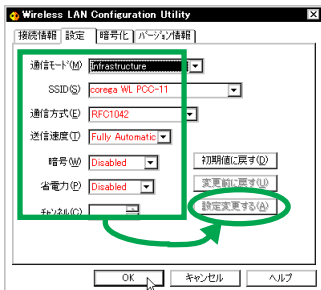
(1) タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。

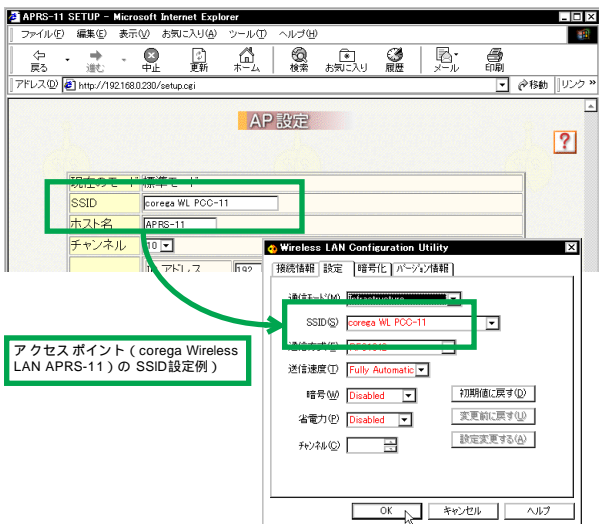
タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」メニューから「プログラム」→「corega WL PCCB-11」→「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

(2) 「設定」タブをクリックし、各項目の設定を変更します。設定を変更したら、「設定変更する」ボタンをクリックします。

注意

設定を変更した場合は、必ず「設定変更する」ボタンをクリックしてください。「設定変更する」ボタンをクリックしないと、設定は有効になりません。

■アクセスポイントを使用してネットワーク接続する場合（Infrastructure モード）

- 「通信モード」
  無線LANのネットワーク構成を設定します。アクセスポイントを使用してネットワーク接続する場合には、「Infrastructure」モードを選択します。

- 「SSID」
  無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータ、アクセスポイントと同じSSID を設定します。corega Wireless LAN シリーズのアクセスポイントを使用してネットワーク接続を行う場合は、アクセスポイントの SSID を確認し、それに合わせて、本製品の設定を変更します。現在の SSID の設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。インストール時のデフォルトは、「corega WL PCC-11」です。

SSID は、半角英数 32 文字以内で設定します（大文字、小文字も区別されます）。インストール時のデフォルトは、「corega WL PCC-11」です。SSID は、セキュリティ確保のために、デフォルトの設定を変更して独自の SSID を設定されることをお勧めします。

- 「送信速度」
  送信速度は、「Fully Automatic」、「1Mb」、「2Mb」、「Auto 1 or 2Mb」、「5.5Mb」、「11Mb」の中から選択できます。
  帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、デフォルトの「Fully Automatic」の設定のままでご使用ください。

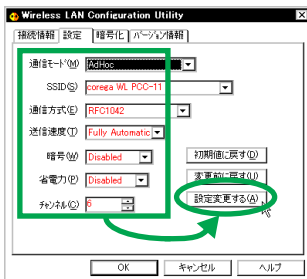
- 「通信方式」
  通信方式は、「Encapsulated」、「RFC1042」、「802.1h」の中から選択できます。
  「Infrastructure」モード時には、「RFC1042」を選択します。

- 「暗号」
  無線通信で、暗号を使用するか使用しないかを選択します。暗号を使用する場合には、「Mandatory」を選択します。暗号を使用しない場合には、「Disabled」を選択します。
  「暗号」を使用する場合には、「2.2.2 「暗号」の設定」（2-18 ページ）を参照してください。

- 「省電力」
  省電力機能を使用するか、しないかを選択します。省電力機能を使用する場合には、「Abled」を選択し、使用しない場合には、「Disabled」を選択します。
  現在は対応しておりませんので、「Disabled」のままでご使用ください。

注意

「Infrastructure モード」で、アクセスポイントを使用して通信を行う場合には、アクセスポイントにも設定が必要です。アクセスポイントの設定についての詳しい説明は、ご使用のアクセスポイント付属の取扱説明書をご覧ください。

■無線 LAN アダプターを取り付けたコンピュータ同士で通信を行う場合（AdHoc モード）

- 「通信モード」
  無線 LAN のネットワーク構成を設定します。
  本製品及び無線 LAN アダプターを取り付けたコンピュータ同士をネットワーク接続する場合には、「AdHoc」モードを選択します。

- 「SSID」
  SSID の設定は、「AdHoc」モードの場合は無効です。

- 「送信速度」
  送信速度は、「Fully Automatic」、「1Mb」、「2Mb」、「Auto 1 or 2Mb」、「5.5Mb」、「11Mb」の中から選択できます。
  帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、デフォルトの「Fully Automatic」の設定のままでご使用ください。

- 「通信方式」
  通信方式は、「Encapsulated」、「RFC1042」、「802.1h」の中から選択できます。
  本製品を取り付けたコンピュータ同士をネットワーク接続する（「AdHoc」モード）場合には、「802.1h」を選択します。

- 「暗号」
  無線通信で、暗号を使用するか使用しないかを選択します。暗号を使用する場合には、「Mandatory」を選択します。暗号を使用しない場合には、「Disabled」を選択します。「暗号」を使用する場合には、「2.2.2 「暗号」の設定」（2-18 ページ）を参照してください。

- 「省電力」
  省電力の設定は、「AdHoc」モード時には無効です。

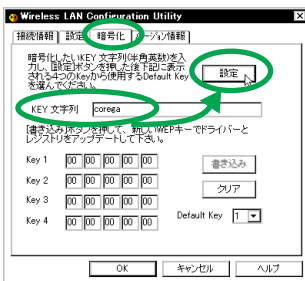
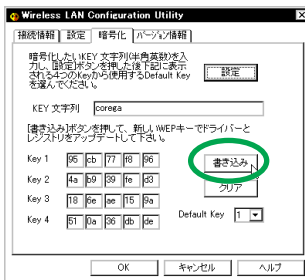
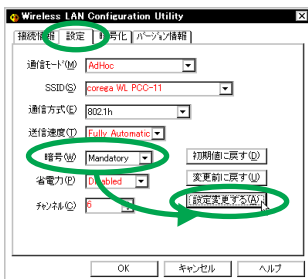
- 「チャンネル」
  「AdHoc」モード時に、無線 LAN通信で使用するチャンネルを設定します。同じネットワークに属するコンピュータ同士は、同じチャネルを設定します。
  チャンネルを変更して使用する場合、他の無線設備と電波干渉を起こすことがあります。電波干渉を起こさないようにするためには、無線通信に使用するチャンネルの間隔をあけて設定してください。

2.2.2 「暗号」の設定

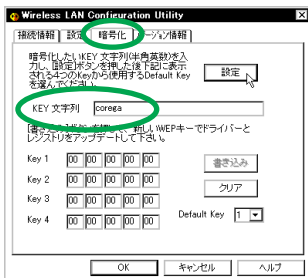
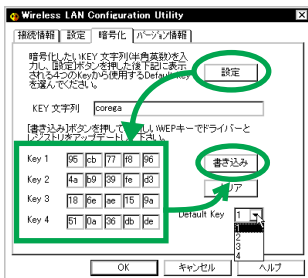
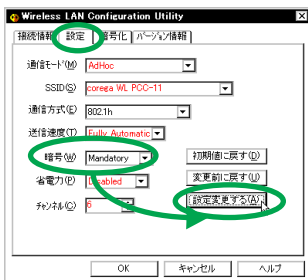
本製品では、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。暗号を使用して通信を行うためには、暗号を使用するグループのコンピュータ全てで、同じ暗号を設定する必要があります。
次に、「暗号」設定の手順を説明します。ここでは例として、暗号を使用して通信するコンピュータを 2 台とし、コンピュータ A、コンピュータ Bと呼びます。

「Infrastructure モード」で、アクセスポイントを使用して通信を行う場合には、アクセスポイントにも暗号の設定が必要です。アクセスポイントへの暗号の設定方法につきましては、ご使用のアクセスポイント付属の取扱説明書をご覧ください。

●コンピュータ A の設定

(1) 「Configuration Utility」の「暗号化」タブをクリックします。「KEY 文字列」に、任意の半角英数文字を入力してから、「設定」ボタンをクリックします。入力した文字の大文字と小文字は区別されます。

(2) 「書き込み」ボタンをクリックします。キーが設定されます。

(3) 「設定」タブをクリックします。「暗号」で「Mandatory（暗号を使用する）」を選択し、「設定変更する」ボタンをクリックします。

(4) これで、コンピュータ A の設定は終了です。暗号を使用して通信するには、通信先のコンピュータにも同じ設定をしなければならないので、続いて、コンピュータ B の設定を行います。

●コンピュータ B の設定

(1) 「Configuration Utility」の「暗号化」タブをクリックします。「KEY 文字列」に、コンピュータ A で入力したのと同じ文字列を入力します。このとき、大文字と小文字は区別されますので、注意して入力してください。

(2)　「設定」ボタンをクリックすると、コンピュータ A で表示されたのと同じキーが表示されます。「書き込み」ボタンをクリックすると、キーが設定されます。

(3)　「設定」タブをクリックします。「暗号」で「Mandatory（暗号を使用する）」を選択し、「設定変更する」ボタンをクリックします。

(4)　これで 2 台のコンピュータの設定は終了です。

2

2.3 ネットワークの接続

ネットワークを接続するには、大きく分けて次の 3 段階の手順を実行します。

手順 1　　コンピュータの「ネットワーク」の設定

手順 2　　本製品の設定

手順 3　　ネットワーク接続の確認

アクセスポイント を使用してネットワーク接続 を行う場合には、アクセスポイント付属の取扱説明書をご覧ください。

「CATV/ADSL モデムと接続してインターネットに接続する」場合や、「TA/ モデムとダイヤルアッ プ接続する」場合には、接続先プロバ イダーや CATV/ADSL 局から配布される接続手順マニュアルを参照して、TCP/IP などのネットワーク設定を行ってください。

2.3.1 コンピュータの「ネットワーク」設定

■「NetBEUI」を使用して、ファイルなどを共有する

コンピュータについて以下の設定が必要になります。

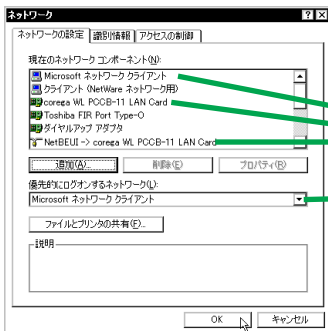
- ●「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認、「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加
- ●ユーザー情報、または識別情報（コンピュータ名、ワークグループ）の確認
- ●コンピュータの共有設定（ハードディスク・プリンター等の共有）

ここでは、ハードディスクの共有を説明してい ます。プリンターを共有する場合は、プリンターメーカによって操作が異なりますので、プリンターメーカにご相談ください。

●「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認

(1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。

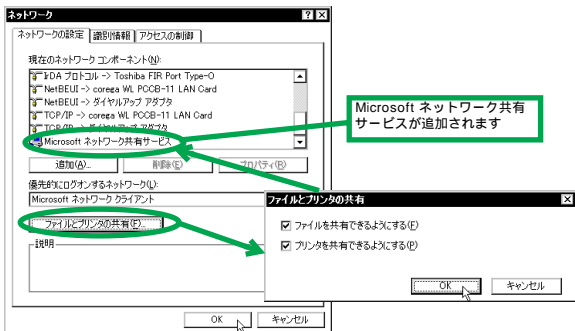
(2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(3) 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

「NetBEUI」と「Microsoftネットワーククライアント」が「現在のネットワークコンポーネント」に無い場合は、「B.1 「クライアント」および「プロトコル」の追加方法」(A-3ページ)を参考に各サービスやプロトコルを追加してください。

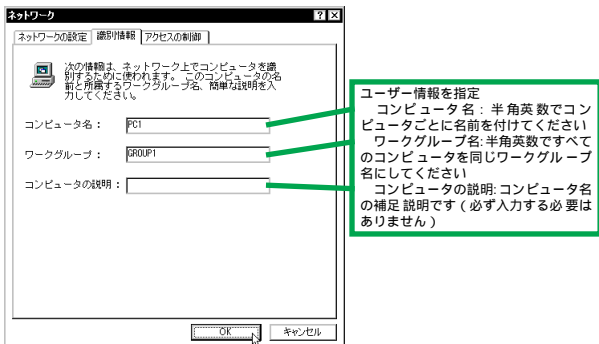
●「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

以下の手順に従い、「Microsoft ネットワーク共有サービス」を追加します。

(1) 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックします。

(2) 「ファイルを共有できるようにする」および「プリンタを共有できるようにする」をチェックし「OK」ボタンをクリックします。画面が戻り「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されます。

●識別情報の確認

以下の手順に従い、「識別情報」を確認します。

(1) 「識別情報」タブをクリックします。

(2) 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」、「コンピュータの説明」を設定します。詳細説明については、「B.4 識別情報画面」(A-8 ページ) を参照してください。設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックしてください。

重要：ワークグループ名は、ピアツーピア接続する全てのコンピュータに同じ名前を設定してください。Windows の OS 自体が、コンピュータ名・ワークグループ名の漢字 (日本語･カナ) に対応していません。必ず半角英数をご使用ください。

(3) Windows の再起動が要求されますので、「OK」ボタンを押して、再起動します。

2

要求されない場合でも、設定を有効にしますので手動で再起動してください。

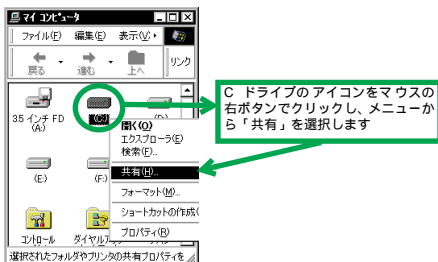
(4) Windows が再起動され「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。詳細説明は、「B.3 ユーザー名とパスワード」(A-7 ページ) を参照してください。

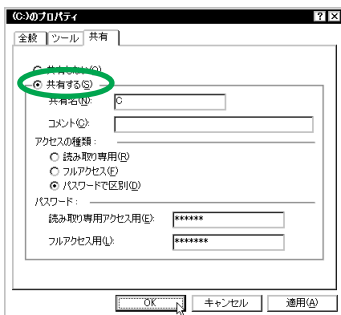
「ユーザー名」と「パスワード」は毎回、必ず入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。
入力しない場合は、ネットワークでの通信ができなくなることがあります。

●コンピュータのディスク共有設定

コンピュータのドライブやフォルダの共有を設定します。ここでは、「マイコンピュータ」の中の「C ドライブ」を共有するときの手順を例に説明します。

(1) デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

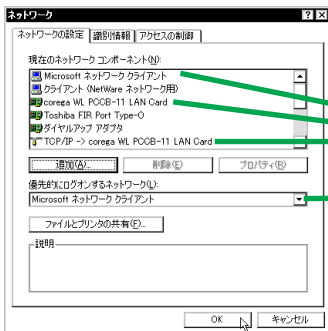
(2) 「マイコンピュータ」ダイアログの「(c:)」ドライブアイコン上で右ボタンをクリックし、メニューを表示して「共有」を選択します。

(3) 「共有」タブをクリックし、「共有する」ラジオボタンをチェックします。

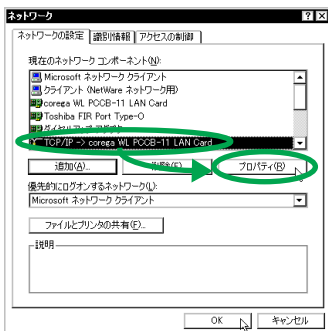
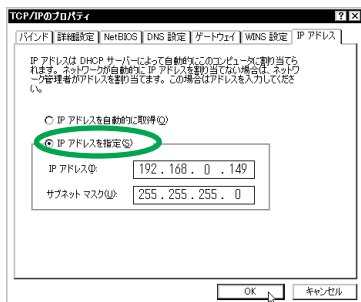
(4) 「共有名」、「アクセス権の種類」、「パスワード」などの項目を運用方法に合わせて設定します。設定方法についての詳細説明は、「B.2 共有設定画面」（A-6 ページ）を参照してください。

(5)　C ドライブのアイコンが次のようになります。

■「TCP/IP」プロトコルを使用する

(1)　「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。

(2)　「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(3)　「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

「TCP/IP」が「現在のネットワーク コンポーネント」に無い場合は、「B.1 「クライアント」および「プロトコル」の追加方法」（A-3 ページ）を参考に各サービスやプロトコルを追加してください。

(4) 「TCP/IP」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

(5) 「IP アドレス」タブで、「IP アドレスを指定」をチェックし、IP アドレスなどを設定します。

「IP アドレスを自動的に取得」
DHCP サーバがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレスを自動的に取得」を選択することができます。DHCP サーバには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があります。無線 LAN ネットワーク上に、Windows NT サーバやダイアルアップルータなどの DHCP サーバ機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。ルーター機能を搭載した無線 LAN アクセスポイントがネットワークに接続されていれば、その「DHCP サーバ機能」を使用して、IP アドレスを自動的に取得することが可能です。ネットワーク上に、Windows 98 コンピュータしかない場合は、DHCP サーバは存在しません。

「IP アドレスを設定」
ネットワーク上の他のコンピュータに、既に IP アドレスが割り振られている場合には、ネットワーク管理者に IP アドレスを確認してください。

2

2.3.2 ネットワーク接続の確認

■無線 LAN カードの接続情報の確認

アクセスポイントを経由して無線通信を行っている場合には、無線 LAN カード側から、アクセスポイントとの接続状況を確認することができます。無線 LAN カードを取り付けたコンピュータで、「Configuration Utility」を起動し、「接続情報」タブで確認します。

(1) タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。

タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」メニューから「プログラム」→「corega WL PCCB-11」→「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

(2) 「接続情報」タブをクリックすると、アクセスポイントとの接続状態を確認できます。

- 「BSS ID ステータス」
  アクセスポイントを使用して、ネットワークが接続できていれば、接続されているアクセスポイントの MAC アドレスが表示されます。

- 「チャンネル」
  現在使用しているチャンネルが表示されます。

- 「送信速度」
  無線 LAN ネットワークを構成する機器が対応している送信速度（単位は、Mbps）が表示されます。送信速度は、「1、2、5.5、11」のうちのいずれかが表示されます。

- 「伝送速度」
  現在の送信速度（「Tx」）と受信速度（「Rx」）が表示されます。

- 「通信状態」
  現在の通信状態を、「Excellent、Good、Fair、Poor、Not Connected、Not Applicable」の 6 段階と、「%」で表示します。また、通信状態の変化をステレオのレベルメータのように表示します。

- 電波状態
  現在の電波の状態を、「Excellent、Good、Fair、Poor、Not Connected、Not Applicable」の 6 段階と、「%」で表示します。また、電波状態の変化をステレオのレベルメータのように表示します。

- 「再検索」ボタン
  このボタンを クリックすると、無 線ネットワーク 上のアクセスポイ ントを検索します。

「再検索」ボタンをクリックした後しばらくしても反応がない場合は、検索に失敗しています。アクセスポイントに接続するための設定項目を、再度確認してください。

同じフロアに複数のアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、アクセスポイントを正しく検索することができません。複数のアクセスポイントを使用する場合には、それぞれのアクセスポイントに異なるチャンネルを設定してください。また、電波の干渉を防ぐために、チャンネル番号は間隔をあけて設定してください。アクセスポイントの設定につきましては、ご使用のアクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

●ローミング機能

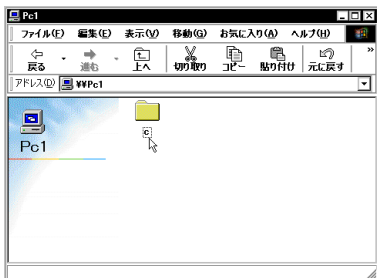
本製品は、ローミング機能（複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能）に対応していますので、複数のアクセスポイント間を移動しても、再接続などの必要はありません。
ただし、アクセスポイントのセキュリティ設定（SSID や暗号、MAC アドレスフィルタリング機能の設定）がアクセスポイント同士で異なる場合には、ローミング機能は正しく動作しません。

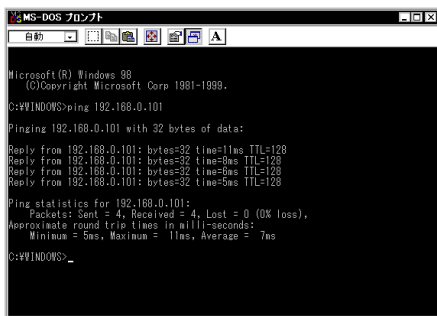
ローミング中は、ネットワーク接続が切断されたり、データ転送の遅延が発生することがあります。データの送受信中（ファイルの転送中など）には、アクセスポイント間を移動しないようにしてください。

■「ネットワークコンピュータ」から確認する

(1) 「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

(2) 「ネットワークコンピュータ」に、無線 LAN で接続されているコンピュータが表示されます。

(3) 接続先のコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、共有しているファイルを参照することができます。

■「Ping」で接続を確認

「Ping」コマンドを実行するには、TCP/IP プロトコルがインストールされていなければなりません。

(1) コンピュータのネットワーク設定で、「TCP/IP」プロトコルの IP アドレスなどが正しく設定されていることを確認します。

(2) 「スタート」メニューから、「プログラム」→「MS-DOS プロンプト」を選択します。

(3) 「Ping」コマンドで、接続先のコンピュータの IP アドレスを指定し、通信できることを確認します。

コマンド入力例
C:\WINDOWS>ping xxx. xxx. xxx. xxx xxx. xxx. xxx. xxx の部分には、接続先のコンピュータの IP アドレスを入力します。

(4) 正常に通信ができている場合には、次のように表示されます。ここでは、接続先のコンピュータのアドレスを、「192.168.0.101」としています（この画面は、Windows 98 の場合を例として使用しています）。

2.4 ホットスワップ (活線挿抜) に関するご注意

本製品に触れる 前に、あらかじめ他の金属 部分（水道の蛇口、ドアノブ等）に触れて体内の静電 気を放電してください。この 時、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。
本製品の内部には、最新の IC 類が使用されています。ご使用中の静電気による故障対策はされて いますが、他の機器との接続 時などには、特に注意して下さい。お客様の不注意に より生じた静電気等によ る故障等につきましては、保証の対象外となりますのであらかじめご了承ください。

2.4.1 本製品の取り付け

Windows 98/Me はホットスワップ（活線挿抜）をサポートしているので、コンピュータの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットに挿入することができます。

(1) 「Wireless LAN PCCB-11」の文字が印刷された面を上にして、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。

コンピュータ機種 によっては、下に向けて装着 するものもあります。間違って装着した場合､本製品やご使用のコンピュータの故障の原因となります｡PC カード装着に関しては、必ずご使用のコンピュータのマニュアル等をご覧ください。

(2) 本製品を PC カードスロットに挿入すると、Windows 98/Me は Plug & Play 機能により本製品を検出します。

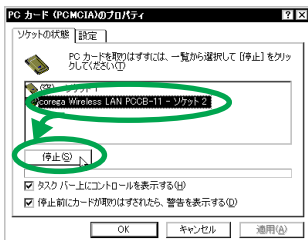
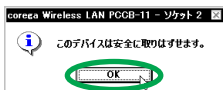
2.4.2 本製品の取り外し

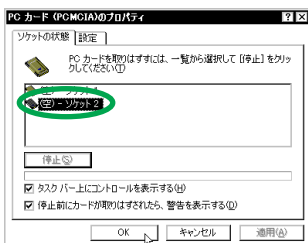
Windows 98/Me はホットスワップ（活線挿抜）をサポートしているので、コンピュータの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットから取り外すことができます。ただし､コンピュータの電源がオンの状態で本製品を取り外す場合は､必ず以下の手順で行ってください。

以下の手順を守らなかった場合、コンピュータのハングアップや、Windows 98/Me ファイルの破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こった障害 に関してはユーザーサポート の対象外とさせていただきます。

(1)　ネットワークと通信を行っているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」を行っている場合は、すべて切断してください。

(2)　タスクバーの PC カードアイコン（通常デスクトップ右下）をダブルクリックします。

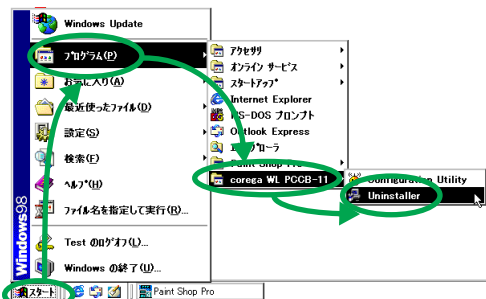
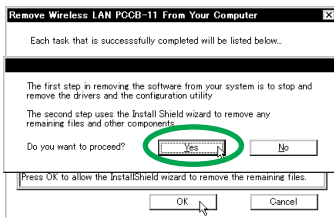
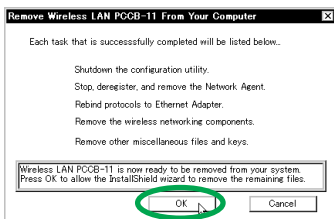
(3)　取り外したいデバイスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。

(4)　「OK」ボタンをクリックします。

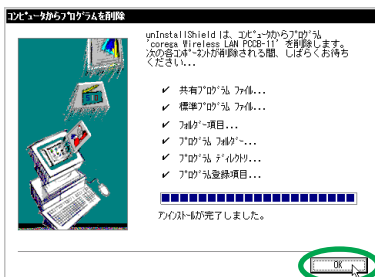
(5) 「空」と表示されることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

(6) コンピュータの PC カード取り外しボタンを押してください。本製品は、PC カードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

2.5 アンインストール

本製品をシステムから削除するには、「Uninstaller」を実行します。「Uninstaller」を実行すると、本製品のドライバーとユーティリティープログラムの両方が削除されます。

■「Uninstaller」を実行する

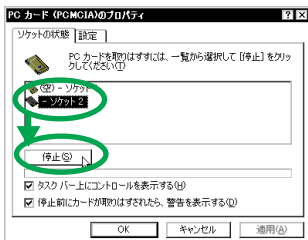
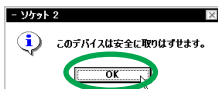
(1) 「スタート」メニューから「プログラム」→「corega WL PCCB-11」→「Uninstaller」を選択します。

(2) 次のダイアログが表示されたら、「Yes」ボタンをクリックします。

(3) 「OK」ボタンをクリックします。

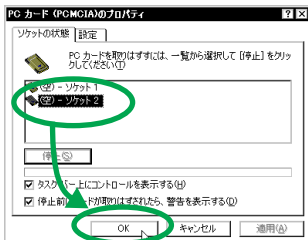
(4) 「OK」ボタンをクリックします。Uninstaller プログラムは終了します。

■本製品の取り外しの確認をする

本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブ等）に触れて体内の静電気を放電してください。この時、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

(1) タスクバーに PC カードアイコンが表示されているかどうかを確認します。PC カードアイコンが表示されていなければ、手順 (6) に進みます。

(2) タスクバーに PC カードアイコンが表示されていた場合は、アイコンをダブルクリックします。

(3) 本製品が挿入されているソケットを選択し、停止ボタンをクリックします。

(4) 「OK」ボタンをクリックします。

(5) 本製品が挿入されているソケットが「空」と表示されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

(6) コンピュータの PC カード取り外しボタンを押してください。本製品は、PC カードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

2.6 トラブルシューティング

ここでは、本製品使用中 のトラブルの代表的 な例と、その対処方法 について説明します。主な現象ごとに、その原因と対応方法を説明していますが、よく分からない場合には、次の手順で本製品の状態を確認しながら、トラブルを解決してください。

1 Power LED は点灯していますか？

2 本製品のドライバーが正しくインストールされていますか？

3 本製品を取り付けたコンピュータのネットワーク設定は正しいですか？

以下の手順は､本製品をPCカードスロットに取り付けた状態で行ってください｡

2.6.1 Power LED は点灯していますか？

■本製品がコンピュータに認識されない

本製品がコンピュータに正しく取り付けられていないと、コンピュータに認識されず、本製品のドライバーが自動的に認識されない､PCカードが検出されないなどの現象が発生します。

●原因 1
本製品が、コンピュータの PC カードスロットの奥まできちんと挿入されていない。
○対応方法
本製品の「Power LED」が点灯していることを確認します。「Power LED」が点灯していないような場合は、「2.4 ホットスワップ (活線挿抜) に関するご注意」（2-34 ページ）を参照し、本製品をコンピュータに正しく取り付けてください。

コンピュータの機種によっては、本製品を PC カードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、PCカードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください。(奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります。)

●原因 2
コンピュータの PC カードスロットが故障している。
○対応方法
・PCカードスロットを複数装備しているコンピュータをご使用の場合は、違うスロットに取り付けて、本製品がコンピュータに認識されることを確認してください。
･別のコンピュータがある場合は､別のコンピュータの PCカードスロットに本製品を取り付けて、コンピュータに認識されることを確認してください。

2.6.2 本製品のドライバーが正しくインストールされていますか？

■「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない

「● デバイスマネージャによるインストールの確認」（2-7 ページ）にしたがって確認を行うと、「corega WL PCCB-11 LAN Card 」アイコンが以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しているために、次のような現象が発生します。

- 「ネットワークアダプタ」の項目がない
- 「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまった
- デバイスマネージャで「！」「？」マークが付く
- 「corega WL PCCB-11 LAN Card 」アイコンが２つ以上ある

●原因

本製品のドライバーが正しくインストールされていない。

「ネットワークアダプタ」の項目がないとか、本製品のアイコンが「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまう原因として、ドライバーのインストール中に行われる Windows 98/Me関連ファイルのインストールをキャンセルしてしまった場合などが考えられます。

○対応方法

本製品のドライバーを一旦削除し、新たにインストールしなおします。以下の手順を実行してください。

(1) 不正にインストールされた「corega WL PCCB-11 LAN Card 」アイコンを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

(2) 「2 Windows 98/Me」（2-1 ページ）の手順にしたがって、ドライバーをインストールしなおしてください。

■デバイスマネージャで「×」が付く

●原因

デバイスが「使用不可」に設定されている。

○対応方法

次の手順にしたがって、「corega WL PCCB-11 LAN Card 」を「使用許可」の状態に切り替えます。

(1) 「corega WL PCCB-11 LAN Card 」を選択（反転表示）し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「全般」タブを表示します（「● デバイスマネージャによるインストールの確認」（2-7 ページ）参照）。

(2) 「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェック「✓」を外してください。

■ PCMCIA コントローラが正しく表示されない

「● デバイスマネージャによるインストールの確認」（2-7 ページ）にしたがってインストールの確認を行った際に、「PCMCIA ソケット」の下に表示される PCMCIA コントローラのアイコンに「？」、「！」のマークが付いている場合は、PCMCIA コントローラが正しくインストールされていません。

●原因

本製品のドライバーは、PCMCIA コントローラと協調して動作します。そのため、PCMCIA コントローラが正しくインストールされていない状況では、本製品のドライバーは動作することができません。

ご使用のコンピュータの PCMCIA コントローラ専用ドライバーが、フロッピーディスクなどで提供されていることがあります。以下で説明する手順を実行する前に、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを確認し、そのマニュアルに記載されている手順で PCMCIA コントローラの再インストールを行ってください。また、専用のドライバーが提供されていない場合は、どのようなドライバーがインストールされているかを記録した後（下記参照)、以下の手順を実行してください。

このようなときは、Windows のシステムレポート出力機能を利用すると便利です。レポートを出力するには、「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」とたどり、「印刷」ボタンをクリックします。「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択し、以後画面の指示にしたがってください。

2

CardBus対応のコンピュータ機種には、使用するPCカードに応じて2種類（16bit/32bit）の PCMCIA コントローラを切り替えなければならないものがありますのでご注意ください。詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルもしくは、コンピュータのメーカーにご確認ください。

○対応方法

次の手順を実行し、PCMCIA コントローラ用ドライバーをインストールし直します。

(1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。

(2) 「PCMCIA ソケット」の下にある PCMCIA コントローラを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

(3) 「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。

(4) 「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」のアイコンが消えていることを確認します。

(5) Windows 98 を終了し、コンピュータの電源をオフにした後、本製品を PCカードスロットから取り外します。

(6) 再びコンピュータの電源をオンにします。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード (PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。

Plug & Play 機能により、ドライバーを自動的に読み込んでしまうコンピュータ機種もあります。

(7) 「ハードウェアの追加」アイコン（コントロールパネル）をダブルクリックしてください。「ハードウェアの追加ウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックしてください（「ハードウェアウィザード」の実行には数分の時間がかかります）。

(8) 「はい（通常はこちらを選んでください）」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ」ボタンをクリックして進みます。最後に「完了」ボタンをクリックしてハードウェアウィザードを終了してください。

(9) 続いて、自動的に「PC カード（PCMCIA）ウィザード」が起動します。表示されるメッセージにしたがって操作してください。

2.6.3 リソース値重複の回避

前述の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「？」、「！」マークが付いていることがあるかもしれません。

●原因
他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。
○対応方法
特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows 98/Me に予め登録（「予約」と呼びます）し、その値が他の Plug & Play 対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないように設定することで、値の重複を回避できます。

(1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値(インタラプト (IRQ)、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA)）を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。

(2) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。

(3) 該当する項目を選択し、「追加」ボタンを クリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

2.6.4 本製品を取り付けたコンピュータのネットワーク設定は正しいですか？

■「ネットワークコンピュータ」に他のコンピュータが表示されない

●原因 1
ネットワークの設定が正しくない。
○対応方法
「2.3.2 ネット ワーク接続の確 認」（2-29 ページ）を 参照し、必要なプロ トコルがインストールがされているか、コンピュータの識別情報が正しく設定されているか、共有設定が正しくなされているかを確認し、正しく設定し直します。

●原因 2
TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

○**対応方法**
「■「TCP/IP」プロトコルを使用する」（2-27 ページ）を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

●**原因 3**
ネットワークパスワードを入力していない。
○**対応方法**
「B.3 ユーザー名とパスワード」（A-7 ページ）を参照し、コンピュータを再起動して、ネットワークパスワードを入力します。

■本製品を取り付けたコンピュータ同士、またはアクセスポイントと通信ができない

●**原因 1**
TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。
○**対応方法**
「■「TCP/IP」プロトコルを使用する」（2-27 ページ）を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

●**原因 2**
電波状態が悪い
○**対応方法**
本製品を取り付けたコンピュータ間の距離を短くしたり、障害物をなくして見通しを良くしてから、再度通信してください。

2.6.5　本製品が正常に動作しない

●**原因 1**
ご使用のコンピュータのパワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能が動作している。
○**対応方法**
パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能の設定を OFF（無効）にしてください。（詳細については、コンピュータのマニュアルを参考にしてください。）

2.6.6　その他

■ IP アドレスの設定方法がわからない

次の設定方法を参考にして、IP アドレスを設定してください。

○ネットワーク上にDHCP サーバが存在する場合

DHCP サーバがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレス」設定画面で、「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。（「■ 「TCP/IP」プロトコルを使用する」（2-27 ページ）参照）

DHCP サーバには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があります。無線LAN ネットワーク上に、Windows NT サーバやダイアルアップルータなどの DHCP サーバ機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。

無線 LAN ネットワーク上に、Windows 98/Me のコンピュータしかない場合は、DHCP サーバは存在しませんので、「IP アドレスを自動的に取得」することができません。

○ネットワーク上のコンピュータに、既に、IP アドレスが設置されている場合

ネットワーク管理者に、新しく設定するIP アドレスを確認してください。

○ネットワーク上のコンピュータにIP アドレスが設定されていない場合

コンピュータのIP アドレスを次のように設定します。

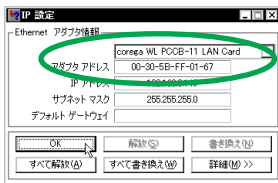
IP アドレスの設定例

コンピュータA	：	192.168.100.　1（255.255.255.　0）
コンピュータB	：	192.168.100.　2（255.255.255.　0）
コンピュータC	：	192.168.100.　3（255.255.255.　0）
コンピュータX	：	192.168.100.254（255.255.255.　0）

■ MAC アドレスを確認する方法が分からない

(1)　「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。

(2)　「名前」に「WINIPCFG.EXE」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

(3)　「corega WL PCCB-11 LAN Card」を選択します。「アダプタアドレス」に、本製品のMAC アドレスが表示されます。

■ドライバーのインストール後に、コンピュータが再起動しない

ご使用のコンピュータ環境によっては、ドライバーのインストール後に、「システム設定の変更」ダイアログボックスで、「今すぐ再起動しますか？」の問いに、「はい」を選択すると、コンピュータがフリーズする場合があります。
この場合は、「いいえ」ボタンをクリックし、「スタート」メニューから「Windows の終了」を選択して、コンピュータを再起動してください。

3 Windows 2000

3.1 インストール

本製品を Windows 2000 に新規インストールする手順を説明します（ここでは、今までにネットワークアダプター用ドライバーをインストールしたことがなく、今回初めて本製品のドライバーをインストールする場合の手順について説明します）。インストールは、次の 2 段階の手順を実行してください。

- 本製品をコンピュータに取り付け、ドライバーをインストールする
- ユーティリティープログラムをインストールする

3

アップデートインストールについて

すでに、Windows 98/95 で本製品を使用している状態から、Windows 2000 にアップデートする場合は、「3.3 アンインストール」（3-18 ページ）の手順に従い、ユーティリティープログラムとドライバーを削除してから、「3.1 インストール」の手順を参考にして、本製品をインストールし直してください。

3.1.1 用意するもの

- WL PCCB-11 カード本体
- コンピュータ（Windows 2000 インストール済み）
- 「セットアップユーティリティーディスク」2 枚

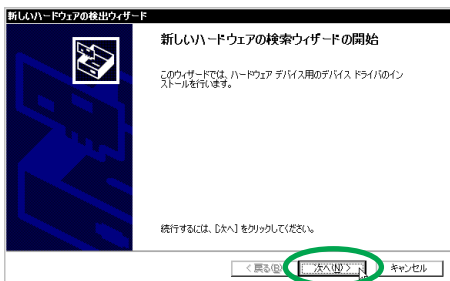
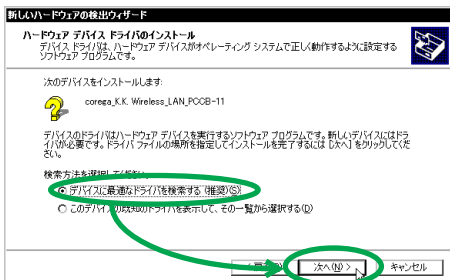
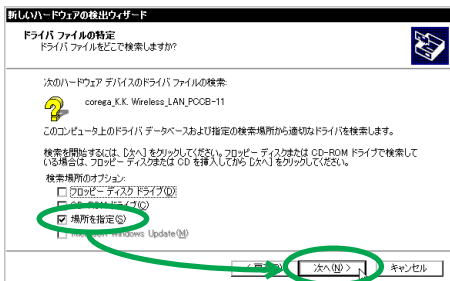
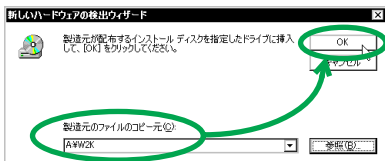
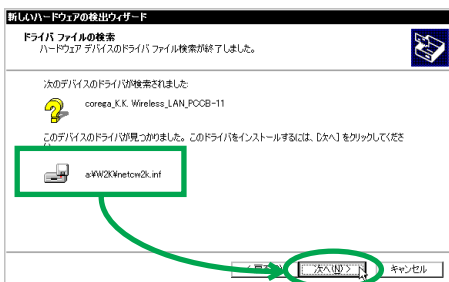
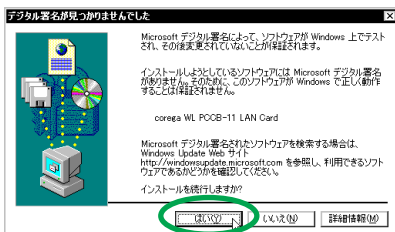
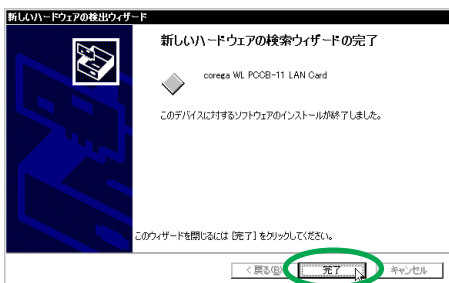
ハードディスク内のデータは、必ずフロッピーディスク等にバックアップをとった後で、ドライバーのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。
また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

3.1.2 コンピュータへの取り付け

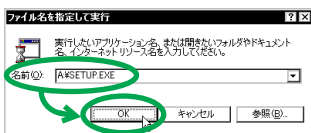
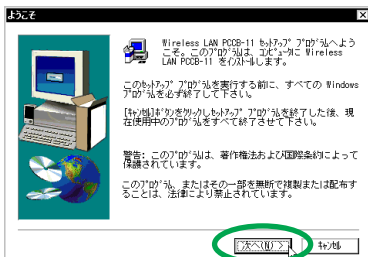
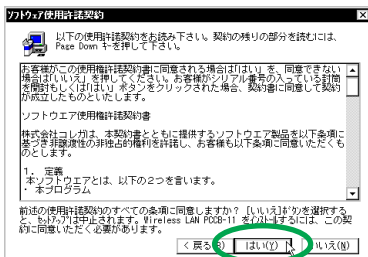
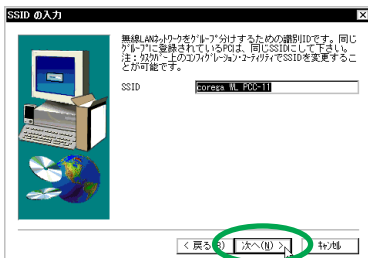
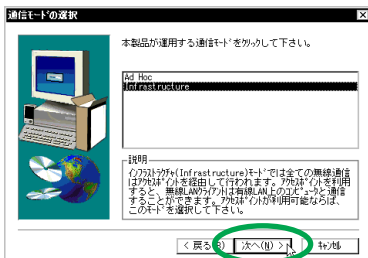
(1) 本製品をコンピュータの PC カードスロットに取り付けていない状態で、コンピュータの電源をオンにし、Windows 2000 を起動します。

(2) 「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンします。

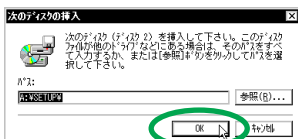
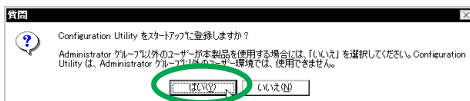
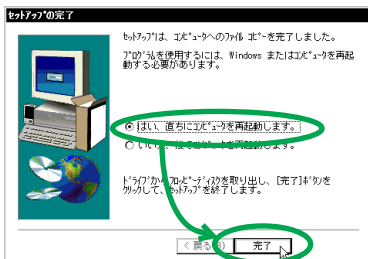
(3) コンピュータの PC カードスロットに本製品を挿入してください。

(4) Windows 2000 は Plug&Play 機能により本製品が PC カードスロットに挿入されたことを自動的に検出し、「新しいハードウェアの検出ウィザード」を起動します。「次へ」ボタンをクリックします。

(5) 検索方法の「デバイスに最適なド ライバを検索する」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。

(6) 検索場所のオプションの「場所を指定」のみをチェックして、「次へ」ボタンをクリックします。

(7) フロッピーディスクドライブに、「セットアップユーティリティーディスク 1of2」を挿入します。「製造元 のファイルのコピー 元」に「A:\W2K」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

(8) 「このデバイスのド ライバ」が「a:\W2K\netcw2k.inf」と表示されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

(9) 次のようなダイアログが表示されることがありますが、その場合は、「はい」をクリックしてインストールを続行します（Microsoft デジタル署名はありませんが、正常に動作します）。

(10)「完了」ボタンをクリックします。

3.1.3 ユーティリティープログラムのインストール

(1) タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、メニューから、「ファイル名を指定して実行」を選択します。

(2) 「セットアップユーティリティーディスク 1of2」をフロッピーディスクドライブに挿入し、「名前」に「A:\SETUP.EXE」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

(3) セットアッププログラムを実行する前にほかのプログラムを終了し、「次へ」ボタンをクリックします。

(4) 「ソフトウェア使用許諾契約」の内容を確認し、「はい」ボタンをクリックします。

(5)　「SSID」を設定し、「次へ」ボタンをクリックします。
アクセスポイントを使用して通信を行う場合は、アクセスポイントと同じ SSID を設定してください。また、SSID は、セキュリティ確保のためにデフォルトの設定を変更して、独自の SSID を設定してください。
デフォルトは、「corega WL PCC-11」です。

(6)　「通信モード」を設定し、「次へ」ボタンをクリックします。アクセスポイントを使用して通信を行う場合は、「Infrastructure」を、無線 LAN カード同士で通信を行う場合は、「Ad Hoc」に設定します。

3

(7) ユーティリティープログラムのインストール先を指定します。表示されているインストール先を変更したい場合は、「参照」ボタンをクリックし、変更先を指定します。インストール先が決まったら、「次へ」ボタンをクリックします。

(8) ファイルのコピーが始まります。「次のディスクの挿入」ダイアログが表示されたら、フロッピーディ スクを「セットアップユーティリティーディスク 2of2」に交換し、「OK」ボタンをクリックします。

(9) 「Configuration Utility をスタートアップに登録しますか？」と聞かれたら、通常は、「はい」をクリックします。
「Configuration Utility」は、Administrators グループのユーザーだけが使用することができます。Administrators グループ以外のユーザーも本製品を使用する場合は、「いいえ」を選択します。

(10) ユーティリティープログラムを使用するには、コンピュータを再起動する必要があります。「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」をクリックし、フロッピーディスクドライブからディスクを取り出し、「完了」ボタンをクリックします。

(11) コンピュータが再起動すると、タスクバーに無線アイコンが表示されます。

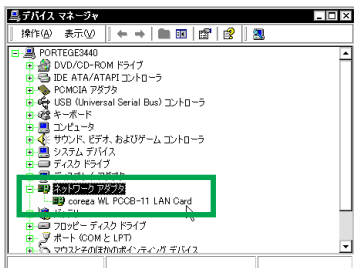
3.1.4 インストールの確認とネットワークおよび本製品の設定

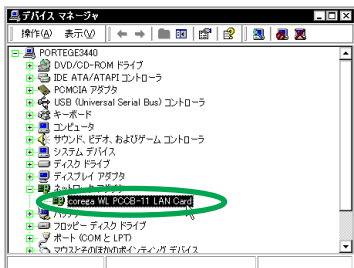
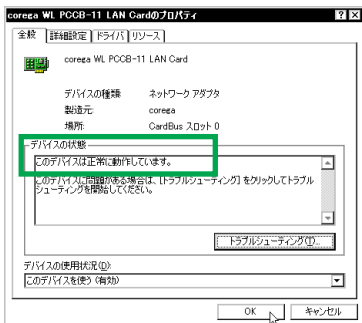
本製品のインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

■デバイスマネージャによるインストールの確認

(1) タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、メニューから、「設定」→「コントロールパネル」を選択します。「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックします。

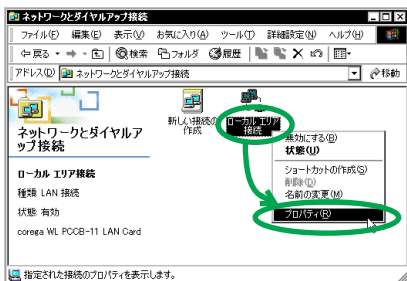
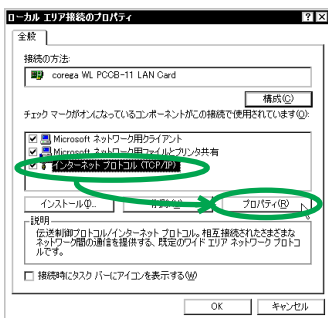
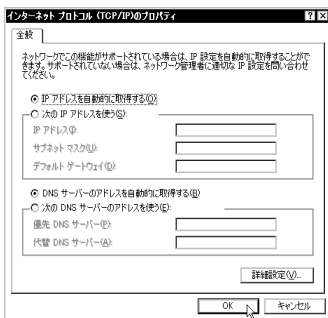
(2) 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

(3) 「ネットワークアダプタ」の下に「corega WL PCC B-11 LAN Card」が表示されていることを確認します。

本製品のアイコンに「？」「！」などのマークが付いていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「2.6 トラブルシューティング」（2-41 ページ）を参照してください。

(4) 「corega WL PCCB-11 LAN Card」をダブルクリックします。

(5) 「全般」タブで、「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されているのを確認します。

(6) 本製品が使用するI/O ベースアドレス、インタラプト(IRQ) などは、Windows 2000によって自動的に設定されます。「リソース」タブを表示すると、これらを確認することができます。

■ネットワークの設定

本製品のインストールが完了したら、本製品を取り付けたコンピュータのネットワーク環境の設定を行います。ここでは、インターネットの参照に必要となるTCP/IP の設定について説明します。

(1) タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、メニューから、「設定」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

(2) 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

(3) パラメータを設定します。

コンピュータのネットワーク設定に関する詳しい説明については、「2.3.1 コンピュータの「ネットワーク」設定」(2-22ページ)を参照してください。

■本製品の設定

本製品を無線 LAN システムで使用するために必要な設定は、「Configuration Utility」を使用して変更します。設定手順は、次の通りです。

(1) タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。
タスクバーに無線アイコンが表示 されていない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、メニューから、「プログラム」→「corega WL PCCB-11」→「Configuration Utility」を選択すると、無線アイコンが表示されます。

(2) 「設定」タブをクリックし、本製品の設定を行います。

本製品の設定に関する詳しい説明については、「2.2 本製品の設定」(2-15 ページ)を参照してください。

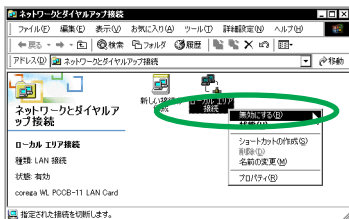
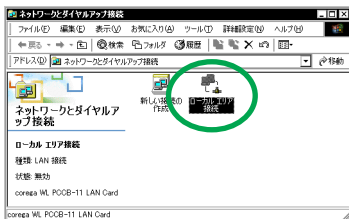
3.1.5 本製品を一時的に使用しないとき

本製品を PC カードスロットに付けたまま、一時的に使用を中止するときには、デバイスを無効に設定します。使用を再開したい場合には、有効に設定します。

注意

次の手順を実行するには、「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンしていなければなりません。

(1) タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、メニューから、「設定」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。

(2) 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「無効にする」を選択します。

(3) 「ローカルエリア接続」がグレーで表示され、無効であることを示します。

(4) 再度有効にするには、「ローカルエリア接続」を右クリックし、「有効にする」を選択します。

3.2 本製品の取り外しの注意

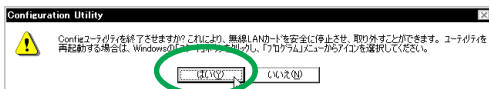
Windows 2000 はホットスワップ (活線挿抜) をサポートしていますので、コンピュータの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットに挿入したり、取り外したりすることができます。

コンピュータの電源がオンの状態で本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順で行ってください。

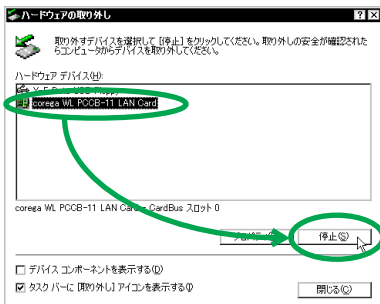
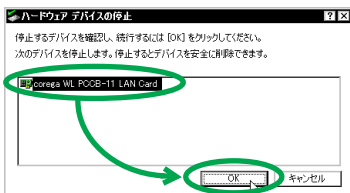
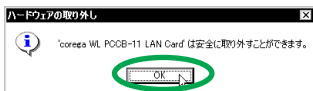
以下の手順を守らなかった場合、コンピュータのハングアップや、Windows 2000 ファイルの破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

(1) ネットワークと通信を行っているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」を行っている場合は、すべて切断してください。

(2) タスクバーの無線アイコン（通常デスクトップ右下）を右クリックします。

(3) 「Config ユーティリティを終了させますか？」と聞かれますので、「はい」 ボタンをクリックし、ユーティリティープログラムを終了します。

(4) タスクバーの取り外しアイコン（通常デスクトップ右下）をダブルクリックします。

3

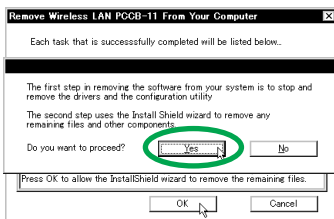
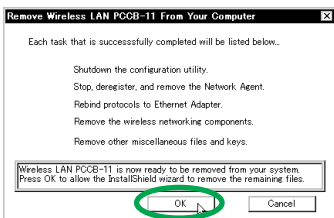
(5)　「ハードウェアの取り外し」ダイアログボックスで、取り外したいデバイスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。

(6)　停止するデバイスを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

(7)　「安全に取り外すことができます。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

(8) 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」ダイアログボックスを閉じます。コンピュータの PC カード取り外しボタンを押し、本製品を取り出します。

3.3 アンインストール

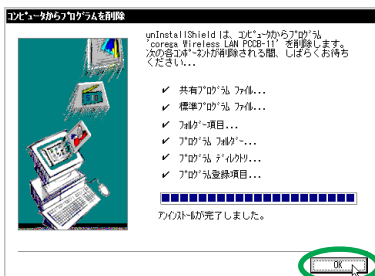
本製品をシステムから削除するには、「Uninstaller」を実行します。「Uninstaller」を実行すると、本製品のドライバーとユーティリティープログラムの両方が削除されます。

■「Uninstaller」を実行する

(1) 「スタート」メニューから「プログラム」→「corega WL PCCB-11」→「Uninstaller」を選択します。

(2) 次のダイアログが表示されたら、「Yes」ボタンをクリックします。

(3) 「OK」ボタンをクリックします。

(4) 「OK」ボタンをクリックします。Uninstaller プログラムは終了します。

3

3.4 トラブルシューティング

ここでは、本製品の Windows 2000 へのインストールに伴うトラブルの対処方法について説明します。
その他のトラブルにつきましては、「2.6 トラブルシューティング」（2-41 ページ）を参照してください。

■無線アイコンが表示されない

●原因
エラーが発生し、「Configuration Utility」が起動できない。
○対処方法
「Configuration Utility」は、Administrators グループ以外のユーザーは使用することができません。「Administrator」または、Administrators グループのユーザー名でログインし直してください。

A 付録

A.1 製品仕様

無線部	
規格	国際規格　IEEE 802.11、802.11b 国内規格　RCR STD-33、ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz（2412～ 2484MHz）
変復調方式	DS-SS 方式
情報変調方式	CCK、DQPSK、DBPSK
アクセス制御方式	CSMA/CA
データ転送速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
サービスエリア	屋外 150m、屋内 50m （11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m）
スクランブル処理	WEP
空中線電力	1.7mW/MHz
アンテナダイバーシティー	空間ダイバーシティー
電源部	
動作電圧	DC +5V ± 0.5V
最大消費電力	1.6W
最大消費電流	送信時 350mA 受信時 250mA
環境条件	
保管時温度	-20 ～ 60 ℃
保管時湿度	95%以下（ただし、結露なきこと）
動作時温度	0 ～ 40℃
動作時湿度	80%以下（ただし、結露なきこと）
外形寸法	
	54.0(W) ×115.0(D) × 8.4(H)mm (アンテナ部を含む) PCCard TYPEII Extended
重量	
	約 50g
取得承認	
EMI 規格	VCCI クラス B

付

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

A.2 MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は､MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器（アダプター）のひと つひとつに割り当てられた唯一無二の（unique、ユニークな）アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト（48 ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは､製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています (表記は全て 16 進数)。

00 90 99	81 xx xx
ベンダー ID	通し番号

・ベンダー ID
LAN ベンダー（LAN 用機器を製造しているメーカー）が IEEEに申請することにより得られる識別番号です。

・通し番号
この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、「81 xx xx」の 6 桁の数値となっています。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。

MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

A.3 使用可能なリソースの範囲

本製品で指定できるリソースの値は、次の通りです。（* が工場出荷時の値）

・インタラプト（IRQ）： 3、4、5、6、7、9、10*、11、12、15

・IO アドレス： 180、200、240、280、2C0、300*、340､380、3C0、4000、5000､6000、7000､8000､9000､A000、B000､C000、D000

B「ネットワーク設定」の補足説明

B.1「クライアント」および「プロトコル」の追加方法

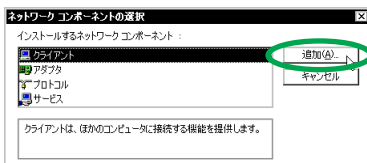
ここでは、「Microsoft ネットワーククライアント」と「NetBEUI」プロトコルの追加方法を例として説明します。「TCP/IP」プロトコル の場合は、「NetBEUI」を「TCP/IP」に読み替えてください。

Windows 98 での表示を例として説明しています。Windows Me をご使用の場合も手順は同じです。

B.1.1 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加方法

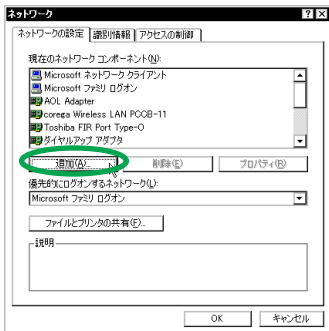
(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加」ボタンをクリックします。

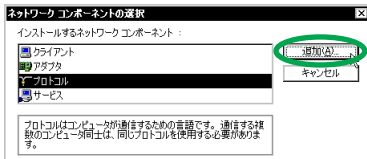
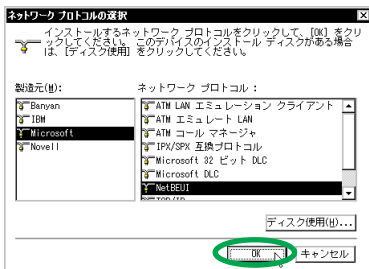
付

(2) 「インストールするネットワークコンポーネント」の一覧より、「クライアント」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

(3) 「製造元」に「Microsoft」、「ネットワーククライアント」に「Microsoft ネットワーククライアント」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

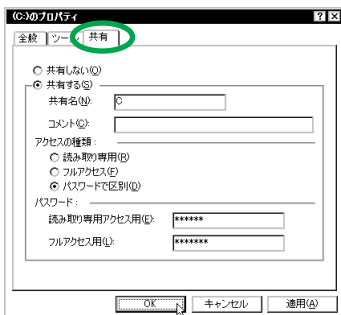
(4) Microsoft ネットワーククライアントが追加されたのを確認します。

B.1.2 「NetBEUI」の追加方法

(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加」ボタンをクリックします。

(2) 「インストールするネットワークコンポーネント」の一覧より、「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

付

(3) 「製造元」に「Microsoft」、「プロトコル」に「NetBEUI」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

(4) NeuBEUIが追加されたのを確認します。

B.2 共有設定画面

共有したいドライブのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから「共有」タブを選択すると、次の画面が表示されます。

設定する項目の説明は、次の通りです。

●共有しない：　ドライブの共有を解除するときに選択します。

●共有する：　ドライブの共有を設定するときに選択します。

●共有名：　共有するドライブの名称を変更することが出来ます。

●コメント（C）：　共有するドライブやフォルダに対する説明を入力します。
（必ず入力する必要はありません）

●アクセス権の種類：共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
・読み取り専用（R）：　共有するドライブを読み込み専用にします。
・フルアクセス（F）：　共有するドライブに読み書きを許可します。
・パスワードで区別（D）：　パスワードにより、読み書きを許可します。

●パスワード：「アクセス権の種類」に対するパスワードです。
・読み取り専用アクセス用（E）：読み取りを許可するときのパスワードを設定します。
・フルアクセス用（L）：読み書きを許可するときのパスワードを設定します。

B.3 ユーザー名とパスワード

ドライバーのインストールが完了し、コンピュータを再起動すると「ネットワークパスワードの入力」ダイアログボックスが表示されます。

●ネットワークを使用するときは、ユーザー名とパスワードを入力してください。
ただし、ネットワークを使用しないときは入力する必要はありません。

●ユーザー名とパスワードは、Windowsをセットアップする過程で設定しています。
初めてログインするときは、セットアップ時のユーザー名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。(パスワードは空白でも可能です)

ユーザー名とパスワードは任意に設定できます。特に決まりはありません。また名称によって通信ができないという事もありません。

「ネットワークパスワードの入力」ダイアログは、「ネットワークの設定」ダイアログ（「コントロールパネル」で「ネットワーク」アイコンをクリックする）で、「優先的にログオンする」の設定が、「Microsoft ネットワーククライアント」に設定されていない場合は表示されません。

B.4 識別情報画面

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択し、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックして、「識別情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

設定する項目の説明は､次の通りです。

●コンピュータ名：ネットワーク上でコンピュータを識別するための名称です。
各コンピュータごとに固有の名称を設定します。（半角英数のみ）

●ワーク グループ：ネットワー ク上のコンピュー タをグループ分け するための名称です。特に分ける必要がなければ、ネットワーク内のコンピュータは、すべて同一の名称にしてください。（半角英数のみ）

●コンピュータの説明：「コン ピュータ名」の補足説明です。特に入力しなくても構いません。

付

C 用語集

C.1 本製品の設定に関する用語

● AdHoc
「AdHoc」モードは、アクセスポイントを使用しないで、本製品及び無線 LAN アダプターを取り付けたコンピュータ同士でネットワークを構成する場合に使用します。コンピュータ同士は、ピアツーピアで接続され、お互いのリソースを共有することができます。

● Infrastructure
「Infrastructure」モードは、アクセスポイントを使用し、有線ネットワークと無線ネットワークが統合され 1 つのネットワークとして構成する場合に使用します。

● SSID
「SSID」（Service Set IDentifier）は無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータまたはアクセスポイントは、同じ SSID を設定しなければなりません。「SSID」は、半角英数文字 32 文字以内（大文字、小文字も区別される）で設定します。（「SSID」の設定は、「Infrastructure」モードの場合に有効です。）

●通信方式
デフォルトでは、IEEE802.11 の周波数変換方式の RFC1042 モードが設定されています。古い無線 LAN のシステムと接続する場合は、ドロップダウンリストから他の通信方式を選択します。

●送信速度
送信速度は、無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータが対応している速度から選択することができます。帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、「Fully Automatic（送信速度自動設定）」に設定しておきます。「Fully Automatic」に設定すると、送信速度はネットワークを構成するコンピュータに合わせて自動的に調整され、最適な速度で通信できるようになります。

●暗号
本製品は、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。WEP（Wired Equivalent Privacy）という暗号化方式を使用しています。WEP では、40 ビットの組み合わせからなるキーを使用し、ネットワークへのアクセスをコントロールします。また、データの送信ごとに暗号化することによって、データの安全

性を確保します。送信されたデータを解読するには、無線ネットワーク上のコンピュータにも、同じキーを設定しておかなければなりません。

●チャンネル
無線 LAN 通信で使用される、IEEE802.11 のデフォルトのチャンネルを設定します。

C.2 ネットワーク関連の用語

●ピアツーピア接続
コンピュータ同士が、1 対 1 で対等に通信を行います。サーバーとクライアントのように機能を分化せず、お互いの機能を利用して通信を行い、ファイルやプリンタなどの資源を共有することができます。

● Microsoft ネットワーククライアント
Windows 98/95 などのサーバーサービスを利用するためのクライアントソフトウェアです。通常、プロトコルには、「NetBEUI」が使用されます。

● NetBEUI プロトコル
小中規模のネットワークトランスポートプロトコルです。NetBEUI は、OSI 参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。これを、NetBIOS と統合することにより、ワークグループ LAN 環境で効率的な通信システムが実現されます。Windows 98/95 でサポートされています。

● TCP/IP プロトコル
インターネットで使用されているプロトコルで、OSI 参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。TCP/IP プロトコルを使用すると、異なるプラットフォームのコンピュータ同士でも通信することができます。

●無線 LAN
配線を必要としない LAN（Local Area Network）のことです。1つの建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で、電波や赤外線、レーザーを使用してネットワークを構築します。

●アクセスポイント
無線 LAN から有線 LAN のネットワーク上のコンピュータに通信するための装置です。

付

D 保証と修理について

D.1 保証について

本書に記載されている、「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で製品を保証するということではありません。正しい使用法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。詳しくは、本書に記載されている「製品保証規定」をお読みください。また、本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

D.2 修理について

故障と思われる現象が発生した場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを 確認してください。現象 が改善されない場 合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛に製品をお送りください。誠に申し訳ございませんが、直接来社されてのサポート依頼は受け付けておりませんので、製品は必ず宅急便などでお送りください。

製品を送られる場合は、次の点にご注意ください。

- 弊社サポートセンターへ製品を送られる場合の送料につきましては、送り主様のご負担とさせていただきます。
  なお輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 宅配便など、送付の控えが残る方法 でお送りください。（普通郵便による送付は、固くお断りいたします。）
- 修理期間は、製品到着後 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

製品送付先　〒 222-0033　横浜市港北区新横浜 1-19-20
（株）コレガ　corega サポートセンター宛

E ユーザーサポートについて

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268
月〜金（祝・祭日を除く）10:00-12:00、13:00-17:00

Fax: 045-476-6294

なお、電子メールによるサポートは行っておりませんので、ご了承ください。

E.1 corega Net-News の購読について

付

■ corega のホームページにアクセスしてください！

http://www.corega.co.jp/

corega ホームページにアクセスすれば、商品の詳細や ＰＣ 動作検証リストはもちろん、ＦＡＱ などコレガに関するすべての情報が入手できます。ダイレクトショッピングからドライバーのダウンロードまで、便利なサービスも満載で、何でもおまかせのホームページです。

■ corega Net-News を購読しませんか？

corega Net-News は、コレガ社がお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。ホームページのアップデート情報もお知らせしますので大変便利です。
coregaホームページから、どなたにもご登録いただけますので、是非、ご利用ください。

E.2 調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

■ハードウェアとソフトウェア

* 本アダプター上に貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) を調査依頼書に記入してください。

  (例) S/N 000770000002346 Rev 1A

* ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。
* 他社のインター フェースボード やユーティリティ をご使用の場合 は全てご記入ください。

■お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。
* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。
* 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

■ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

F おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

coregaは、株式会社コレガの登録商標です。
Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標及び商標です。
その他、この文書に記載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2001年 6月　　Rev.A　初版

調査依頼書（corega Wireless LAN PCCB-11 1/2）

年　月　日

一般事項

1. 会社名（個人名）：　　フリガナ：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒

   TEL:　（　　）　　FAX:　（　　）

2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　実購入先（TEL）：　（　　）

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン
   製品名：corega Wireless LAN PCCB-11

   S/N________________ Rev___　　S/N________________ Rev___

   セットアップユーティリティー　Ver.________pl________

   ３台以上ご使用の場合は、別紙にご記入ください。

2. ご使用のコンピュータ機種と併用している他メーカーの拡張アダプター（ボード）
   コンピュータのメーカー名／機種
   OS とバージョン
   拡張アダプターのメーカー名／機種

お問い合わせ内容

□別紙あり　　□別紙なし

□設置中に起こっている障害　　□設置後運用中に起こっている障害

付

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

・PCカード本体：製品保証書に記載の“ 保証期間 ”で無償保証とします。
（但し、本規定の他の条項に準じます。）

・本体付属品（ディスク）：3ヶ月間保証

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます（詳しくは、取扱説明書の「D.2 修理について」をご覧ください）。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、静電気、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■本製品添付のドライバーソフトウェアが他社の提供するハードウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は、行いません。

■本ハードウェアが他社の提供するソフトウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は行いません。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名	corega Wireless LAN PCCB-11
シリアル番号（S/N）	
ご購入日	

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター

TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294

〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-19-20

受け付け時間： 10:00〜12:00/13:00〜17:00

月〜金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印が無い場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。